

## 大飯原発再稼働決定に怒りをもって糾弾する（声明）

野田首相ら三閣僚は 16 日午前、関西電力大飯原子力発電所 3・4 号機について、ごく一部の自治体の同意が得られたことをもって、再起動を最終判断として決定した。

J R 総連は、政府の原発再稼働の決定強行を断じて許さず、怒りを持って糾弾する。

今回の再稼働の決定は、東電福島第一原発事故や事故発生での対処の失敗を何ら教訓にしたものでない。さらに避難生活を余儀なくされている人々の苦しみを足蹴にするものである。

再稼働決定にあたり、意図的に「電力不足」があおられ、偽りの安全性が吹聴されるなど、政府は再稼働ありきの姿勢を貫いてきた。しかし、核廃棄物処理方法さえ明確にされず、将来にわたる安全性の確保ができていないことなどは全く無視されてきた。

その背後には、「原子カムラ」と呼ばれる原発推進派の戦略的な核開発や、海外進出も含む原発推進の狙いがあることは言うまでもない。

まさに今回の決定で、野田首相らは「脱原発依存」から一転、まさに「国策」として原発推進に舵を切ったと言える。断じて許されない。

私たちは将来にわたり、核のない平和な社会をめざさなくてはならない。今、積極的に進めなくてはならないのは、原発再稼働・核開発ではなく、再生可能エネルギーへの転換である。

J R 総連は、今回の大飯原発の再稼働決定を断固許さず、すべての原発の永久停止を求める。

2012 年 6 月 16 日

全日本鉄道労働組合総連合会（J R 総連）